

講演会

水俣と福島の間。

『水俣病の民衆史』著者・岡本達明氏に聞く

今年（2016年）は水俣病の公式確認から60年、そして福島第一原発事故から5年に当たります。2つの惨事に共通するのは、予兆があり、修正の機会も数多くあったのに、それを生かせないまま多数の命、豊かな自然と地域社会が失われたことです。産官学で守ろうとした産業自体も衰退しました。補償額、被害額が拡大し、国民負担も膨らみ続けています。

こうした事件が繰り返されたのは何故か。過去に学べない日本社会の構造は、どこに由来するのか。「日本という社会を下へ下へと掘り下げていったとき、そこに何かがあるか知る手段として工場を選んだ」という、岡本達明氏（元チッソ水俣工場第一組合委員長、著書に『水俣病の民衆史』全6巻他多数）の講演をもとに考えます。

2016.9.11 日

14:00 - 17:00

立教大学 池袋キャンパス
7号館 1階 7102 教室

東京都豊島区 西池袋 3丁目 34-1
池袋駅西口より徒歩約7分
資料代：500円



共催 | 日本環境ジャーナリストの会
立教大学 ESD 研究所

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ESDによる地域創生の評価と ESD 地域創生拠点の形成に関する研究」（研究代表者・阿部治）、立教大学 ESD 地域創生研究センター設置準備室

*ESD：持続可能な開発のための教育

講演者 ● 岡本達明 元チッソ水俣工場第一組合委員長（著書：『水俣病の民衆史』全6巻他多数）

モデレーター ● 石井徹 朝日新聞編集委員

登壇者プロフィール

● 岡本達明（おかもと・たつあき）

1935年東京生まれ。57年、東大法学部卒業、新日本窒素肥料株式会社入社。70、78年、チッソ水俣工場第一組合委員長。編著書「近代民衆の記録7 漁民」、「聞き書 水俣民衆史」、「水俣病の科学」。

● 石井徹（いしい・とおる）

朝日新聞編集委員（環境・エネルギー担当）1960年東京生まれ。上智大学法学部卒業後、85年に朝日新聞社入社。盛岡支局、東京本社社会部、青森総局長など経験。共書に「地球異変」「地球よ 環境元年宣言」「エコ・ウォーズ 低炭素社会への挑戦」。

当日、岡本達明著『水俣病の民衆史』全6巻を展示し、割引販売の予約を受け付けます（書籍は後日発送となります）。

申込み方法：

下のQRコードからアクセス、または「日本環境ジャーナリストの会」のホームページからお申し込みください。FAXの場合は、お名前・連絡先電話番号・メールアドレスを記載の上 03-5825-9737 までお送り下さい。

問い合わせ先：

地球・人間環境フォーラム TEL 03-5825-9735

※個人情報取扱について

この講演の参加のためにお預かりした個人情報は、当会主催の同様の講演会等の案内以外には使用せず、外部への共有もいたしません。

